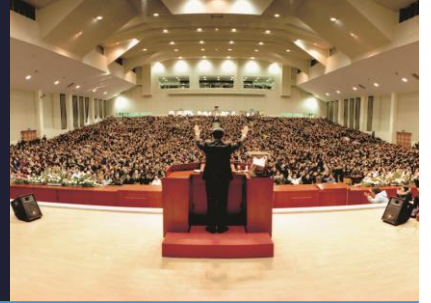


# 恵みと真理のニュース



2018 年 8 月の三次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



## 【証】

### 実家と婚家の家族を全て救ってくださり、私に区域長の職分を下さり、伝道の使命を下さった神様に感謝します

“あなたがたは、キリストを見たことがないのに愛し、今見なくても信じており、言葉では言い尽くせない素晴らしい喜びに満ちあふれています。それは、あなたがたが信仰の実りとして魂の救いを受けているからです。  
(ペテロ信徒への手紙ー1：8，9)

わたしは小学校5年生の時、友達から伝道されまず、イエス様を信じ教会に通っていた兄について教会に通うようになりました。教会が村で20里も離れたところでした。その遠い道を兄の手を掴んで共に歩いて教会に通うのが大変で退屈しなかったです。教会で説教を聴いて聖書を習って賛美歌を習う時間が本当に幸せでした。しかし、1年が過ぎて偶像崇拜をする家庭の雰囲気のせいでまた、母を手伝って家の事をするため教会にいけなかったです。時間が経って18歳になったその年、わたし達の村に教会が建てられました。リバイバル会に参席して人の魂が新たに生まれ変わる理由、イエス様を信じ仕える生活をする理由を確実に知るようになり再び熱心に教会に行きました。偶像崇拜をしていた父が兄とわたしが教会に通うことを知って鞭を振って教会に行けないようにさせましたが、わたし達の兄弟は賛美して踊って教会に通いました。聖霊洗礼を受けた後、もっと熱心に神様を仰ぐ信仰生活をしました。夜ごとに、わたしを救ってくださった神様に感謝を捧げ、父と母の魂の救いのためわたし達の家族の名前が天国の生命本に記録されるのを希望しながら両手を合わせて神様に切に祈りました。“主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。”(使徒言行録16：31)アーメン！神様がわたしの祈りを聞いてくださって親を救ってください



## 【信仰コラム】

“愛する者よ、あなたのたましいがいつも恵まれていると同じく、あなたがすべてのことに恵まれ、またすこやかであるようにと、わたしは祈っている。”(ヨハネの第三の手紙2節)

マラキ4章2節に“しかしわが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている。あなたがたは牛舎から出る子牛のように外に出て、とびはねる”としました。イエスキリストはエホバを敬う人の魂と肉体、生活に癒す光線を発してくださいます。しかし、窓が閉って太い帳が垂れていると光線が家の中に入ることができません。従って、私達の心の窓に帳が垂れないように注意すべきです。

第一は、憎みの帳が心に垂れないようにしなければなりません。

憎みという考えの帳を除去するためにはその対象を許さなければなりません。イエス様は教会と聖徒に許しの原則を与えられました。(マタイ18:15~17, ルカ17:3)教会や自分に害悪を及ぼす者に対して傍観せず、適切に措置すべきです。しかし、憎みの感情は排除しなければなりません。憎みの感情を処理する賢い方法があります。その対象を哀れむことです。

第二は、嫉みと嫉妬の帳が心に垂れないようにすべきです。

しました。伝道することにいつも叱った父と母は結局偶像崇拜をすることが意味ないのとむなしいことであるのを悟ってイエス様を受け入れました。ハレルヤ！

24歳の時にお見合いで結婚しました。旦那が長男で婚家で舅姑と共に暮らすようになりました。結婚する前は良く知らなかったですが、舅姑は父と母よりもっと偶像崇拜が酷かったです。旦那が子供の時から体が弱くて家で偶像を崇拜をするため夫の祖母と姑は祭祀をしました。結婚初期はわたしが教会に通うってイエス様を信じる話をするのが出来ませんでした。それで、わたしは毎日、泣きながら神様に祈りました。ある日、健康だった舅が急に倒れて寝込みました。病院に行って検査を受けましたが、その病名を知ることが出来ませんでした。すると、姑は巫女を家に呼んで大きい祭祀をしました。お金だけ使ってどんな効果もなかったです。すると、今回にはまた、創価学会を信じると治るという話を聞いて姑はしばらくそこに行きました。わたしがこれから偶像崇拜と占いを信じなくてわたしと一緒に教会に行こうと誘っても姑は聞くふりもしなかったです。

そんな状況で私ができることが神様に祈るしかなかったです。舅姑をはじめ家族の救いのため、そしてわたしが自由で教会に行き思いきり神様に礼拝するのをねがい祈りました。義弟が婚期になってイエス様をよく信じ仕える人と結婚して信仰生活をしながら家族を伝道するように神様に祈りました。驚くことは義弟が長老の娘と結婚しました。神様の恵みでした。わたしは相嫁と共に舅の健康のため祈り“これからイエス様を信じてわたしたちと一緒に教会に行きましょう。”と強く勧めました。舅は深いだめ息で思って“そうしよう。”と答えました。本当にうれしかったです。相嫁の親に助けを要請すると二人とも喜んで舅を教会に仕えて行きました。

舅はイエス様を受け入れて神様を信じる生活をしてまもなく健康が回復しました。すると、夫の祖母と姑も教会に来るようになってわたしもそのように行きたかった教会を自由に通うようになりました。ハレルヤ！

その後、夫が事業をすると決定して分家をしました。食堂を運営する計画を立てて華城市で土地を買って建物を建てました。そして、華城の主民でない人は5年以上をそこで住んだら許可を得ることが出来るとしてここ華城で引っ越ししました。

## 健康と治癒を妨げる心の帳

イスラエルの初代の王サウルはダビデに対する猜忌の念を治めることができなくて彼が享受できる光栄が恥じになりました。猜忌と嫉妬の帳を心から除去するためには自分がキリストイエスの中で受けた福を考えるべきです。良くして忠実に神様に仕えることを生活の意味と価値を置いている人は自分を他の人と比較することによる劣等感が生じません。

第三は、怒りの帳が心に垂れないようにすべきです。神様がアベルと彼の捧げ物を喜ばれたが、カインと彼の捧げ物を受けられませんでした。カインは神様の差別に対して恨んで色をなしました。神様がカインを責められて悔い改めを促されました。なのにもカインは怒りを治めずに弟アベルを野原に呼び出して撃ち殺し、人類最初の殺人者になりました。怒ることを遅くすると怒りが緩和されて激怒しないようになります。怒りを長く抱いてはなりません。

第四は、心配の帳が心に垂れないようにしなければなりません。

心配を主の手に任すべきです。心配が心の窓に垂れていると、心が沈滞します。心の沈滞は病菌に対する抵抗力を落して免疫の技能を低下させます。“心の楽しみは良い薬である、たましいの憂いは骨を枯らす。”としました。

第五は、悲しみの帳が心に垂れないようにすべきです。最も大きい悲しみを与える死亡も天国と復活の望みで克服することができる聖徒達はいかなる悲しみも直ちに外すことができます。そして助け主の聖霊が悲しみ

引越した後は新しい教会を決めるのが容易ではなかったです。あちこち教会を転々と渡り歩きながら祈る中で恵と真理教会を仕える勤士と首区域長が伝道するため来ました。大きい食堂を運営して市内から離れた郊外に建てた建物なので周辺に人も住まない所ですが、ここまで来て福音を伝える彼らの信仰と一人の魂を愛する心にわたしの心が感動されました。首区域長の手伝いで水曜礼拝に参席して初めて当会長のチョンモク牧師の説教の御言葉を聴いて御言葉の恵を受けて涙が流しました。“あ！ここがわたしが探した教会だ。わたしがこれから通う教会だ。”家に帰って旦那に話して、主日に旦那について教会に来て礼拝を捧げた後、教籍に登録しました。主日礼拝だけかろうじて参席した旦那は平日礼拝と区域礼拝も頑張って参席しながら信仰が育ちました。

幼いときから病弱だった旦那は青年の頃、腎臓の手術を受け、数年前から糖尿病と心臓病で薬を飲んでいました。ところが、昨年の夏に、歩く時、息苦しくて病院に行って医師から心臓機能が落ちていて早く手術をするべきだと聞きました。お年寄りでわたしの家で仕えている姑は息子が手術を受けてもしかして間違いはないか心配をしました。すると夫も心配になったか手術を受けることを躊躇しました。

教会に行くたびに旦那は牧師から按手祈りを受けて、教区長と教区の区域長達が心をつづにして夫のため祈ってくださいました。すると、旦那は勇気を出して神様の助けを求めて手術を受けました。神様から委ねて平安な心で手術に応じて、神様の恵みの中で手術を成功しました。そうして旦那は今も一報一報歩くことに神様に感謝の話をします。

実家の父と母、夫の祖母と舅姑はすべてイエス様をよく信じて仕えながら天国に召されました。子供の時にわたしの手を掴んで初めて教会に導いてくれた兄は長老の職分を受けて熱心に教会と生徒を仕えています。わたしの切ない祈りを聞いてくださり、すべての家族を救ってくださった神様に感謝を捧げます。神様から受けた清くて尊い区域長の職分を真面目で忠誠して担えます。優れる勤士と首区域長と区域長の愛と献身を見習って主が下さる日まで熱心に福音を伝え伝道の義務を尽くします。神様にすべての栄光を捧げます。

を受けた聖徒を慰めてくださいます。悲しみの帳が皆さんの心に垂れると神様が言約なされた望みの御言葉を声を出して読んでください。そして聖霊の慰めを求めてください。そうして迅速に悲しみを取り払ってください。

第六は、恐れ帳が心に垂れないようにすべきです。全能な神様が共におられてくださり、手伝ってくださいという信仰は恐れを除去してくれます。恐れが心に垂れると皆さんは、神様がイザヤ預言者を通じてくださった御言葉を誦してください。"恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる"。

憎み、猜忌、憤怒、心配、悲しみ、恐れはまるで窓を遮って通風と採光を隔てる太い帳のようです。私達の心を清潔に、明るくしてくれる活力と光が入るのを妨げる役割をします。聖書はこのような否定的な情緒が私達の健康に有害な事実を明らかにしています。そして、私達の体と心を健康にする治癒の能力と光で満たす方途を教えています。

「チョンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



# 癒しのために祈る七つの理由



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

癒しという言葉は、教会で主に使用される用語です。神の力によって癒しを受ける意味です。私たちが祈っても治らない場合があっても癒しのために祈ることを躊躇したり、停止しないでください。癒しを求めたのが、決して無益ではないことを知るようになる時が明らかに来ます。神は神の言約と命令を信じて従う者の自身が定めたときと方法で必ず栄光にさせていただきます。聖徒たちが癒しの恵みを求める理由があります。この時間は、その理由を七つに分けて説明します

## 第一の理由は、病んでいる人が癒しの恵みを求めているのは、非常に自然なことだからです。

体や心に不快感や痛みがある場合、そのような状態から抜け出すことを望むのが人の常です。そうではない者がいる場合は克己訓練をしたり、宗教を実行するため苦行する場合であります。このような人であっても病気で苦しむのを好むはずがないです。神は愛の力が無限です。愛だけでは問題をすべて解決してくれることができません。親が子供を愛するが、子の要求をすべて解決してはくれません。問題を解決してあげることができる力が必要です。神は愛と力を均等に持っています。これらの神を信じて仕える人には癒しの恵みを求めていることは非常に自然で当たり前のことです

## 第二の理由は、神が病気を予防し、治癒されることをなさると自ら言われたからです。

モーセがイスラエル民を紅海から導きスール荒野に入って行き、その荒野で三日の道を行ったが、水を見つかりませんでした。彼らが池を発見したが、その場所の水が苦いので飲むことができませんでした。民がモーセにつぶやいて不平を言うの“私たちは何を飲むのか？”と言うと、モーセは主に叫びました。主は彼にある一本の木を指示したので、モーセがその木を水に投げると水が甘く変わって食べられるようになりました。主は彼らのために法律と掟を定めて言われた「あなたが、もしあなたの神、主の聲に良く聞き従い、その目に正しいと見られることを行い、その戒めに耳を傾け、すべての定めを守るならば、わたしは、かつてエジプトびとに下した病を一つもあなたに下さないであろう。わたしは主であって、あなたをいやすものである」(出エジプト記 15:26) しました。神は自分を「治療する主」と明らかにしました

1) ユダの王ヒゼキヤが病気になって死ぬされたが病気を癒すのために神に熱心に求めたら、神様が癒しました。

2) 神は、異邦人であるアラムの国の軍隊長官ナアマンのらい病を預言者エリシャを通して癒しました

## 第三の理由は、イエスは 3 年半の間の公的な活動を通じて病人を数え切れなほど、癒してくださったからです。

新約聖書の福音書を読む人は、イエスが病人を癒されたことをどの程度行なわれたのを見て驚きを禁じ得なくなります。イエスは病人を癒すのに貴重な時間を割いた。いやしを受けるためにイエスのもとに来た人の中で敬遠されて退けを受けた人は一人もいません。イエスは彼によく来た病人をすべて癒してある時にはいちいち手を置いて癒しました。「日が暮れると、いろいろな病氣になやむ者をかかえている人々が、皆それをイエスのところに連れてきたので、そのひとりびとりに手を置いて、おいやしになった」(ルカによる福音書 4:40)とし、「イエスは、すべての町と村を巡り歩いて、諸會堂で教え、御國の福音を宣べ伝え、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをおいやしになった」(マタイによる福音書 9:35)としました

## 第四の理由は、イエスの贖いの恵みの中で癒しが含まれているからです。

イエス・キリストが苦しみ受け、十字架につけられて死なれたのは私たちの命のための贖いの苦難であり、死です。預言者イザヤは預言するのを「まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだ。しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のためにたたかれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を與え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」(イザヤ書 53:4,5)しました。イエス様がいばらの冠を負うようになって、鞭で打たれたと、十字架につけ掛けたのは、人生の罪と罪を贖うためでした。それだけでなく、私たちの病を負い、私たちの悲しみを当されたとし、「彼の打たれた傷に、私たちは癒された」としました

イエスの弟子マタイとペテロは聖霊の感動おられ、それぞれこのように記録しました。「夕暮になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れてきたので、イエスはみ言葉をもって霊どもを追い出し、病人をことごとくおいやしになった。これは、預言者イザヤによって「彼は、わたしたちのわずらいを身に受け、わたしたちの病を負うた」と言われた言葉が成就するためである」(マタイ 8:16,17)し、「さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである」(ペテロの第一の手紙 2:24)しました

## 第五の理由は、イエスが弟子たちと信者に病人を癒す仕事をするように命令されたからです。

イエスが弟子たちに福音を宣べ伝えるために送られ「天国が近づいたと病人を癒しなさい。」と指示しました。復活されたイエスが昇天の前、弟子たちを集め、これを命じて約束しました「そして彼らに言われた、「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、不信仰の者は罪に定められる。信じる者には、このようなしるしが伴う。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また、毒を飲んでも、決して害を受けない。病人に手をおけば、いやされる」(マルコによる福音書 16:15~18)

そしてマルコによる福音書は次の記録で最後を飾っています「主イエスは彼らに語り終ってから、天にあげられ、神の右にすわられた。弟子たちは出て行って、至る所で福音を宣べ傳えた。主も彼らと共にはたらき、御言に伴うしるしをもって、その確かなことをお示しになった」(マルコによる福音書 16:19,20) 弟子たちがイエスの言葉に従うて行う際に、主と一緒に仕事する伴うしるしを介して言葉を確認していただいたものです

## 第六の理由は、病気があれば癒されるよう、互いに祈りなさいと聖書に記録されたからです。

ヤコブ使徒は、聖霊の感動を受けて記録するのを「あなたがたの中に、病んでいる者があるか。その人は、教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を注いで祈ってもらうがよい。信仰による祈は、病んでいる人を救い、そして、主はその人を立ちあがらせて下さる。かつ、その人が罪を犯していたなら、それもゆるされる。だから、互に罪を告白し合い、また、いやされるようにお互のために祈りなさい。義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」(ヤコブの手紙 5:14~16)としました。義人の祈りは、大いに力がありました、ここに義人とは、イエスを信じる人々を指しています

ローマ人への手紙 3 章に記録されることを「すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の榮光を受けられなくなっており、彼らは、償なしに、神の恵みにより、キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。それは、今の時に、神の義を示すためであった。こうして、神みずからが義となり、さらに、イエスを信じる者を義とされるのである」(ローマ人への手紙 3:23,24,26)としました。「イエスを信じる者は義とされ」と神の宣言は、イエス・キリストにあるあがないによったものです。巨大な犠牲によったものです。だからイエスを信じる人は、通常の身分ではありません。以前と非常に異なる身分になりました

ヘブル人への手紙 10 章 38 節には「わが義人は、信仰によって生きる。もし信仰を捨ててなら、わたしのたましいはこれを喜ばない」と記録された。イエスを信じる人を神は「私の義人」と呼びました。そして「義人の祈りは、役事の力が多いである」と言われたので癒しを受けるために、大胆に祈ることができま

## 第七の理由は、癒しを求めて治癒を経験するようになると、いろいろの有益があるからです。

- 1) いやしを受けた聖徒の信仰が増進されます。
- 2) 神様に感謝と栄光を帰すされます。
- 3) 未信者に主の愛と能力を示す証拠されて福音を伝えるのに役立ちます。
- 4) 健康な体に主の仕事に積極的に努めることができるようになります

愛する皆さんは、この時間に見た癒しのために祈る七つの理由を覚えて、さらに積極的に求めてください。そして癒しをたくさん体験してください。